

## <白金標準、トランプ相場にコスト再確認で6月以来の4800円台・・・>



(出所：オアシス)

トランプ元大統領が遊説先で銃撃未遂を受け、11月の大統領選でトランプ大統領の誕生を懸念した動きが強まっている。特に2016年トランプ大統領が就任した後は、対中国に対するディール（関税引き上げ）を行い、白金価格は軟調な動きを見せている。特に今回は、欧州におけるNATOへの拠出金の問題に、ウクライナ支援の離脱など欧州市場における政治リスクが強まる状況である。また中国に60%を超える関税引き上げを行う旨を述べるなど、ディールが好きな動きを見せている。特に白金の需要において需要の3割を占める自動車触媒の4割が欧州市場であり、宝飾需要では中国がトップに存在するなど、トランプ元大統領が有利になった時間帯から白金価格は下落を強めている。特にアングロ・アメリカ・プラチナの上半期の収益悪化の中で、現金営業単位コストのガイダンスは、PGMオンスあたり905ドル～959ドルと示唆されている。そのため白金標準先物は、週末には4872円まで下値を試すなど、3日間で323円の下落を行っており、修正波動が終われば思惑相場から需給相場へ移行すると思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下落し、シグナルも下げている。RCIでは短期が下げ止まり、長期も下げている。ただ日足が10日移動平均線から乖離しており、自律反発の動きには注目した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,530,000円(2024年7月22日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復71,280円(2024年7月22日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>